

～あした、転機になあれ!～

美し島哲楽さびら。

職場を元気にする哲楽レシピ その十

「雑談」のチカラを哲楽すると……。

不足しがちな雑談で
人を元気にさせる

季節は秋に変わるころですが、私は、相変わらず「どうしたら、もっと職場に笑顔が生まれるのだろうか?」と哲楽する日々です。

今年の夏、コミュニケーションの研修にうかがったいくつかの現場で、同じ問いかけをお届けしました。「イキイキとした笑顔のある職場をつくるために、あなたの職場に何があつたらいいと思いますか?」。あなたなら:どんなものが浮かびますか?

広い休憩室・社員食堂にもっと美味しいメニュー・飲み会という定番から「仕事ができるイケメン男性スタッフ」という自由気ままな(?)声までいろいろありました。その中で、一番多かったのが「雑談」!

この仕事をして11年目になります。が、「雑談」という言葉がこんなに出了たことはありませんでした。予想外の展開に、本当に驚いています。

このことから哲楽して:まず、気づいたことが、大きく二つあります。それは「雑談が大きく不足している」とこと「雑談が、こんなにも人を元気づける!」ということでした。ともすると「雑談=ムダ話」と思われがち。ムダは省く!という効率化の流れもまた、雑談の絶滅危機に拍

車をかけているのかもしれない。

そういえば、とある販売の現場で、発注業務が機械化されて楽になったかと思いきや、「紀々さん、私たちは機械では癒されません!」という言葉にハッとすることを思い出した。ギリギリの人数で対応するため、休憩も一人ずつ。すっかりお昼の番組も終わってしまったところに、テレビに向かって食事をしている姿をたびたび目にしました。お腹は満たせても、これでは気持ちは満たされないなあど気になりながら:。

一方で、活気のある現場には、リーダーがごまめに声をかけ、ちよつとした会話があちこちで生まれているという共通点も発見。

雑談には、たくさんの「心の小さなへこみを復活させる効果」があると思います。言葉にする・息を吐く・自分の気持ちを確認する・外の空気を発想を取り込む・笑い飛ばす:。

これらはビックリするほど心を軽くし、ヤル気を復活させ、笑顔にしてくれるもの。だまされたと思つて、雑談を試してみてください。それでも、もしだまされたと感じた方は、遠慮なく私にご連絡ください(笑)。

もつと:。

話してみませんか?

悩みを抱えていた場合でも雑談は

有効なのだということ、みなさんから教えてもらいました。「必ずしも、その悩みに触れてもらわなくてもいい。時には、それに触れられると余計に落ち込むこともあるから。まったく関係ない、フツの話がで

きただけで気分が切り替えられるものだから」という声も多くあります。そんな女性スタッフの方々の声を聞くうちに、ふと男性リーダーから届いたお悩みが頭に浮かび:恐る恐る問いかけていました。

「例えば、それが寒いギャグでもアリですか?」

すると:すぐにキッパリとした答えが返ってきました。

「もちろん、アリです!!」

参加者の方々からは一瞬笑いも起ころりましたが、笑顔のうなずきがいっぱいで本当に驚きました。

男性リーダーからは「女性スタッフが元気や笑顔がないときに、どう声をかけたらいいか悩んでいる」という声は、とても多かったのです。この日以降、私は、男性リーダーに早速伝え歩きました。「雑談を!たとえ寒いギャグでも、ウエルカムだそうです!!(笑)」と。

もちろん、万能ではないし、人それぞれであることは百も承知の上。だとしても、心配を抱えたまま、黙って見ているよりは、風穴につながる可能性は高いと思いませんか?



紀々(きき)

哲楽家。那覇市出身。1998年に早稲田大学第一文学部哲学科東洋哲学専修を卒業。「自ら考え、自ら動く力を磨く社員研修」との依頼を受け、「哲楽のチカラを、笑顔のチカラに」をテーマに、さまざまな企業現場でサポートを行っている。特に「若手リーダー・女性スタッフがイキイキ元気に働ける職場づくり」を哲楽する研修は、好評。現在は、沖縄の表現で「Let's 哲楽」を意味する「哲楽さびら。」を合言葉に、沖縄発で職場に哲楽習慣・風土を広めるべく活動を展開中。

今日は
どんな話をしましたか?

